

貝塚市埋蔵文化財調査報告 第39集

貝塚寺内町遺跡

1996. 7. 31

貝塚市教育委員会









SA 403 土壘（北から）



SA 403 土壘（東から）



第2層第5面
SA403、354土壘、404柵列ほか



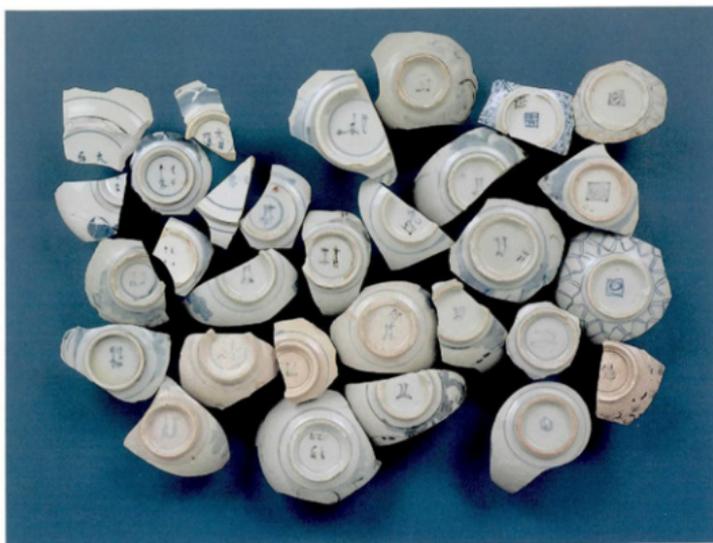
第2区第5面 全景（東から）



第2区第5面（北東から）



出土遺物写真(土錘・陶磁器)



出土遺物写真(磁器)

第1章 調査経過

1. 調査に至る経過

南海辰村建設株式会社

貝塚市西町550-1他21筆に、南海辰村建設株式会社（以下、原因者とする）によって分譲マンションの建設が計画され、平成7年6月8日に教育委員会教育部社会教育課に文化財保護法第57条の2第1項の規定により埋蔵文化財発掘の届出が提出された。

貝塚寺内町遺跡

建設計画地は、貝塚寺内町遺跡の西端部に位置していることから、遺構遺存状態を把握するための試掘調査が必要であると判断し、原因者と協議し確認調査を6月21日におこなった。

慶安元年（1648）の絵図

貝塚寺内町遺跡は、貝塚市の北西海岸部に位置する南北約800m、東西約550mの範囲に広がる、願泉寺を中心とした中世から近世にかけての都市遺跡である。

府道堺阪南線

貝塚寺内町は、慶安元年（1648）の絵図にみられる海を除く南北、東の三方に濠をめぐらせた独立した都市であった。

現在では、環濠は埋め立てられ、南北にのびる府道堺阪南線と東西にのびる府道貝塚停車場線及び市道貝塚牛滝線によって4ブロックにわけられ、往時の姿は失われたが寺社を中心として江戸時代の建造物が数多くのこっている地域である。



図1 願泉寺山門

確認調査は、現状にて調査実施可能な部分において3カ所の調査区を設定し実施した。その結果、江戸時代後半の遺構、遺物包含層が良好に存在することが明らかとなった。

町屋形成等

教育委員会は、中世末から発達した貝塚寺内町遺跡海岸部の町屋形成等について解明するため、開発行為により破壊を受ける部分について、記録保存のための発掘調査が必要であると決定した。



図2 願泉寺本堂

以後、原因者と教育委員

会は協議にはいり、6月29日には原因者より平成8年4月より建設工事にはいりたい旨の建設計画工程がしめされた。

教育委員会は、種々検討したが業務が多いことから、平成8年7月より調査着手を希望し、原因者との間で調査時期が決定できなかった。

外部への調査委託

このため原因者は、外部への調査委託を検討され、大谷女子大学の中村浩教授と交渉をもたれた。この間、原因者は、7月21日には開発にともなう事前協議概要書を市に提出し、7月28日には、教育委員会に調査対象面積の拡大をふくむ最終の建設計画をしめた。

事前協議概要書

これを受け、教育委員会

は、原因者と中村教授と調査方法、遺物や記録類の取り扱いなどについて協議を行い、当該遺跡については、別途調査会を組織してその対応を計ることとなり、貝塚市教育委員会教育長を会長とする貝塚市内町遺跡調査会を組織し、その調査担当を中村教授に依頼し、8月21日より調査を開始した。(新、前川)

貝塚市内町遺跡調査会

2. 調査組織

貝塚市教育委員会

教育長
 教育部長
 社会教育課課長
 課長補佐
 文化財係長
 学芸員

福井 昱彦
 真利 寿一
 浅野 成子
 中野 博
 新 知 幸
 前川 浩一
 三浦 基
 上野 裕子

調査主任 大谷女子大学教授

中村 浩



図3 貝塚市内町の街並

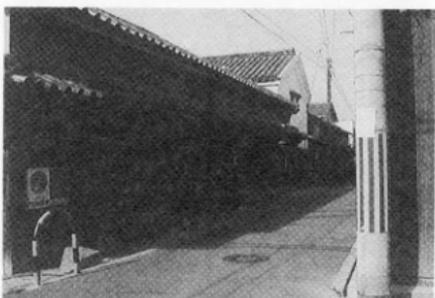


図4 貝塚市内町の街道

調査員	大谷女子大学非常勤講師 関西大学非常勤講師 大阪府立高等学校講師 写真家 大谷女子大学卒業生 大谷女子大学資料館	井山温子 寺嶋辰美・浦川千尋 白鳥英治 田之上裕子・重野真紀 安井かをり	
調査補助員	東京大学学生 琉球大学学生 大谷女子大学学生	米川裕治 城間宣子・神田涼 今兼智恵・村上真由美・山尾葉子 池端真小子・上村典子・岡森貴子 楠本勝代・中岡廉子・仲川亜由美 難波あゆみ・日村幸美・岡布実子 奥加代子・小澤真紀子・池田千尋 香川美由紀・川村明香・川村美和 櫻井美佐・佐谷美穂・田中昭子 西辻規子・藤本千晶子・増口都糸子 松田久美子・室谷順子・茂中晶子 森岡理恵子・山本綾	
	関西大学卒業生 ノートルダム女子大学学生	安井正人 山尾仁美	他
遺物整理作業			
内業調査員	大阪府立高等学校講師 大谷女子大学卒業生 大谷女子大学資料館	寺嶋辰美 田之上裕子 安井かをり	
内業補助員	大谷女子大学卒業生 大谷女子大学学生	大野雅子 今兼智恵・村上真由美・上村典子 岡森貴子・楠本勝代・中岡廉子 仲川亜由美・難波あゆみ・池田千尋 藤野孝子	他

*このほか現地、遺物の写真には阿南辰秀・伊藤慎司氏、自然化学分析及び図面整理などについては(株)夏原技研、夏原信義氏ほか、航空写真撮影については兵庫フカイフォトサービスの協力をえた。併せて感謝するものである。



図5 調査前の調査対象地

3. 発掘調査の経過

魚市場

1995年8月21日から本格的に現地の作業を開始する。まず調査対象となる地域の写真撮影。なお魚市場であったことから、相当厚いコンクリートや、アスファルトの舗装が残されており、その除去に相当手間取っている様子である。しかしそれらの撤去作業が進んでおり、まもなく終了という段階に入っている。ただし作業の状況を見るとかなり地下深くまで攪乱がおよんでいる部分が多いことが分かる。これに平行して調査地周辺の、かつての状態について、特に古老を中心に聞き取り調査を行い、状況把握を行う。

聞き取り調査

宮崎鉄工

聞き取り調査により、まず話の遡れる限界は明治時代であった。明治には木造の織物工場があった。(貝塚織物)やがてその土地を大正10年に宮崎鉄工が買収し、鉄工場を建築して

昭和4年に火災

作業を開始した。このころ鉄筋コンクリートの基礎ができたという。昭和4年に火災があり、当該地域の工場は全焼した。その後も同じ場所で操業が行われたら

昭和36年に鉄工場

しい。昭和36年に鉄工場は貝塚市内の他所へ移転し、昭和48年に魚市場に売却された。以来、この場所は魚市場として利用されてきたが、近年、魚市場が市内の別の場所に移動し、南海建設に売却されたという。

昭和48年に魚市場に売却

8月22日から実質的な調査開始。基礎部分が撤去が完了地域について調査区画の設定を行う。すなわち東側の南北に長いトレンチを1区とし、西側の東西に長いトレンチを2区とする。調査は1区から開始する。

鉄工所の跡地

重機によって鉄工所の跡地



図6 調査状況



図7 調査状況



図8 調査状況

5、発掘調査日誌抄

1995年8月21日

魚市場、コンクリート、アスファルト

作業開始。調査現場事務所内の備品など什器の整理。調査対象となる地域の写真撮影。なお魚市場であったことから、相当厚いコンクリートや、アスファルトの舗装が行われている模様。それらの撤去作業が進んでおり、まもなく終了という段階に入っている。ただし作業の状況を見るとかなり地下深くまで攪乱がおよんでいる部分が多いことが分かる。調査地域の周辺の方々から、調査地について、特に古老を中心に聞き取り調査を分担して行う。

8月22日

実質的な調査開始。撤去が完了した地域について調査区画の設定を行う。東側の南北に長いトレンチを1区、西側の東西に長いトレンチを2区とする。調査は1区から開始。重機によって鉄工所の跡地について表土部分の除去。表土部分は鉄粉や炭のような粉塵が多く堆積。状況写真の撮影、さらに下層の状況確認をテストピットで行う。側壁にそって溝を設定し、下層の確認。溝内部から礎石らしい石が検出される。先の黒色層を重機によって除去作業。

礎石



図9 遺構の状況



図10 遺構の状況

8月23日

人力掘削

1区重機による焼土層(表土から4層目)直上まで掘削。5層を人力掘削にして精査。溝内部の礎石は崩落の危険があるので除去。礎石の写真撮影。状況写真などの撮影。

8月24日

1区5層砂層部分

1区5層砂層部分の精査を昨日に引き続き実施。あ



図11 遺構の状況

わせて溝の礎石に関連する礎石類の検出作業。

2区の調査を開始。重機によって北部から表土除去を始めるが、攪乱が著しく層序関係の把握はかなり困難。重機で第4層の焼土層まで検出が完了。1区精査の状況写真撮影。2区表土除去作業状態の写真撮影。

8月25日

1区2区の中央から南側部分について精査を実施。東側壁については2層までを実測完了。

2区江戸末期から明治時代と見られる4層、2面砂層を直上まで重機で掘削。特に現代の攪乱が著しいこともあり、遺構などの確認が困難な状況であるが、ほぼ表面的な精査、清掃が完了。それらの完了を待ってマーキング。なお攪乱と遺構との峻別がつきにくい。東側断面実測図作成。2区2面の写真撮影。

8月26日

1区第2面(4層砂層)のコンクリート基礎の平板実測(S=1/100)。昨日に引き続き東壁断面の実測を続行。1区と2区を分ける中央の土手部の西壁断面の実測を開始。2区第1面の平板実測図(S=1/100)を1区に引き続き行う。

1区、2区の断面図実測作業風景、および平板実測風景の写真撮影。



図12 調査状況



図13 わずかに残る未攪乱部分



図14 調査状況



図15 調査状況

表土除去作業状態

江戸末期

現代の攪乱

東壁断面

平板実測風景

南西部の大攪乱

8月28日

1区第2面まで重機により掘削を開始する。SX691（南西部の大攪乱）を検出。井戸砕瓦が多く検出されたため、井戸が存在する可能性が高いと考えられる。



図16 調査状況

黒色灰層

2区の調査区を再設定後、重機による掘削を開始。表土を除去するが、1区で見られた黒色灰層は確認されず、焼土のみを確認した後これを除去し、第2面直上まで掘削。



図17 調査状況

作業風景

1区、2区ともに重機による掘削作業風景を写真撮影。8月29日

1区コンクリート・レンガ基礎を重機によって除去した後、精査。南側の側溝を掘削。作業風景を写真撮影。



図18 調査状況

瓦溜まり

第2面精査状況

2区第2面6層（黒褐色砂層）の精査。SX30およびE5杭付近の瓦溜まりを精査後、第2面精査状況および遺構検出状況の写真撮影。攪乱および溝遺構の掘削。



図19 調査状況

瓦溜まり内

8月30日

引き続き1区コンクリート・レンガ部分を重機により除去した後、精査。除去風景の写真撮影。

2区瓦溜まり内の遺物の取り上げとその様子を写真撮影。

8月31日

1区、2区ともに第2面（6層砂層）を人力により

遺構検出風景

精査、遺構検出およびマーキング。精査風景、第2面遺構検出風景の写真撮影。

9月1日

1区、2区第2面（6層砂層）の遺構掘削を開始。遺構掘削状況を写真撮影。

9月2日

1区割付終了後、北側より平面図（ $S=1/20$ ）の実測を開始。同時に遺構掘削を続行。SX78より古銭が大量に出土したため出土状況の写真撮影および、平面図（ $S=1/10$ ）の実測、レベルング。

古銭が大量に出土

2区第2面の割付を西側から開始。SX31、34、39、40、44、46、47瓦溜まり、集石の精査、その他遺構、攪乱の掘削。

集石の精査
攪乱の掘削。

1区、2区ともに遺構掘削状況を撮影。

9月4日

1区の各遺構・攪乱の掘削作業を続行。完掘できた部分から平面図（ $S=1/20$ ）の実測を続行。2区も同じく、完掘後、平面図の実測を開始。午後4時頃には完掘することができたので、小型ヘリによる航空撮影と阿南氏による撮影。

航空撮影

9月5日

1区、昨日に引き続き第2面（6層砂層）の平面図実測を続行。2区の平面実測が完了次第、レベルングを開始。レベルング終了部分から重機により3面（8

レベルング



図20 遺物の水洗



図21 完掘状況



図22 調査状況



図23 調査状況

面図実測

層)まで掘削を開始。

9月6日

1区第2面(6層砂層)の平面図実測を続行。実測完了部分よりレベリングを開始し、終了させる。南側より第3面(8層砂層)まで重機により掘削。SX62、63(埋壘)検出状況の写真を撮影後取り上げを開始。SX62については実測、レベリング後一部取り上げ、残存部を精査し、実測、写真撮影の準備。

2区第2面(6層砂層)

2区第2面(6層砂層)の除去作業を続行。第3面(8層砂層)まで重機で掘削後、人力により精査、遺構検出およびマーキング。

1区、2区ともに作業風景を写真撮影。

9月7日

1区第2面(6層砂層)の実測およびレベリングを完了。SX62、63(埋壘)の取り上げ作業。重機により第3面まで掘削、南側より人力精査、遺構検出、マーキング。井戸枠瓦を使用した井戸(SE532、588)を確認、検出状況の写真を撮影。2区第3面(8層砂層)の精査、マーキングの後全体写真を撮影。

井戸枠瓦

SD203(集石溝)

SD203(集石溝)の精査および細部の写真撮影。

粘土のタタキ面

まず、攪乱の掘削を行い、次に各遺構の掘削。この時点で粘土のタタキ面を確認。

9月8日



図24 遺物のとりあげ



図25 層位の確認



図26 マーキング状況



図27 拡張区タタキ遺構検出状況

第2面
概観

1SB2-01

(2) 第2面

A、概観

表土から数えて6層で確認された生活面である。この地域では難波川北側部分では礎石がいくつか確認されている。これらの礎石は道路拡幅工事によって失われた、建物に伴うものと考えられる。なお明治以降の写真によると、当該地域には倉庫が立ち並んでおり、今回検出した礎石についても、これらに伴う礎石遺構と見られる。(1SB2-01建物)

今回の調査では、北側部分の確認は道路に影響を与えない程度でとどめざるを得ないため、主として調査では難波川から南側を対象として行った。北部のSX62土坑で内部からは陶器製品の大甕が1個みつまっている。おそらくは水甕として利用されていたものであろう。そのほかSZ54、



図30 建物遺構検出状況(1SB2-01)

59、58、60等の不整形な攪乱がみとめられる。またSX56、61土坑あるいはSX57土坑内部には先程の拳大の川原石が充満している。これらは何らかの建物の基礎と考えられる。またM4区ではSX63土坑、SP65、72ピット等の存在がある。これら関連によって建物が存在した可能性があるが、その正確な規模などは不明である

調査区中央付近では、陶器製大甕が土坑内部から確認された。当該面では依然として上層面の基礎に用いられていたコンクリート基礎が残っており、その基礎の間に遺構が散在する。M6区ではSE76井戸が確認されている。またSE76井戸周辺にもSX78、SZ75、77、71攪乱などがみられるが、これらについても、お互いの関連は明確ではない。中央部分では、わずかにピットが数個みられる程度である。また攪乱も規模が大きくなっており、SZ89攪乱の中央部分には井戸が一基みとめられる。L8区にみられるSX90土坑内部には煉瓦で配置された構築物が認められるが、その用途は明らかではない。なおJ9区、K9区には径2-30cmのピットが15個東西方向に並んで検出されており、何らかの柵(杭)列が存在したものと考えられる。この他にも南部地域には正方形の攪乱がみられるが何れも基礎除去後の痕跡とみてよい。

遺構各説

柵(杭)列

1SA2-01

B、遺構各説

a、柵(杭)列

1SA2-01杭列

J9、8区、K9区の境界部分で確認された径14~21cm、深さ5~12cmをはかる円形のピット15個から形成される杭列である。主軸方向はN-8

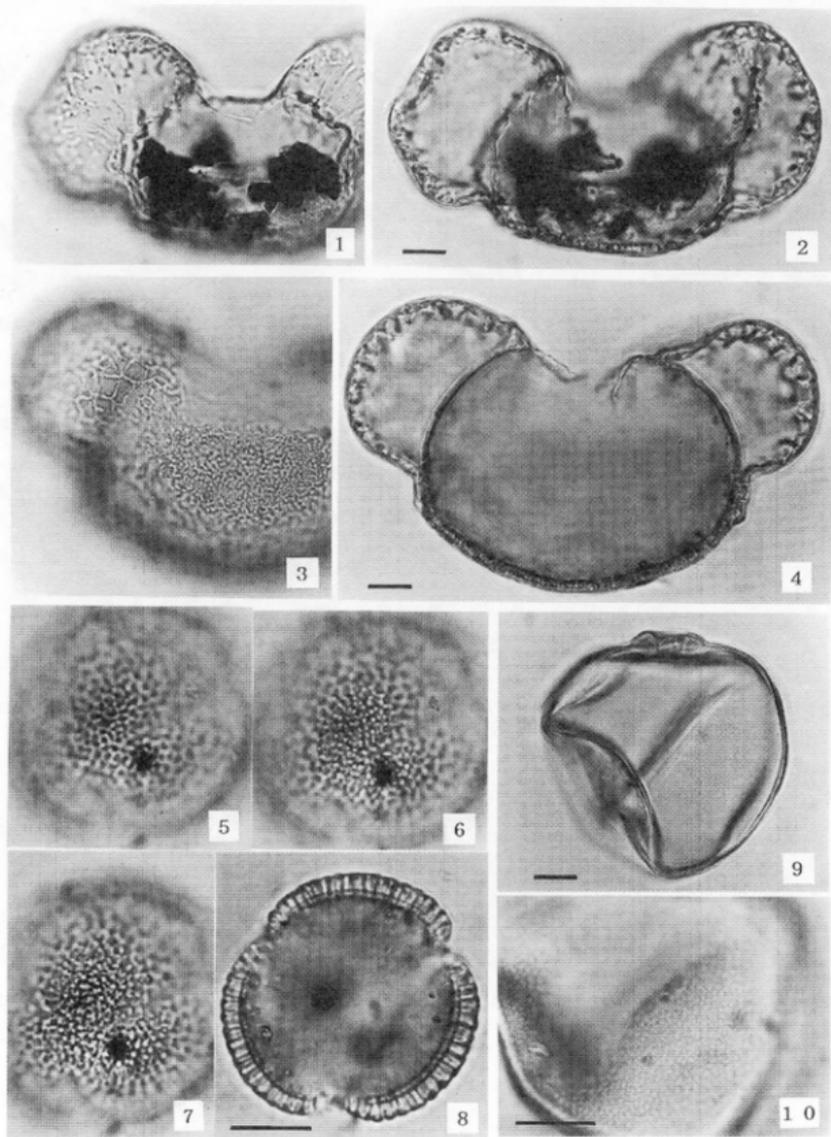


図56 貝塚寺内可遺跡から出現した花粉化石

1・2：マキ属、No.2. 3・4：マツ属複維管束亜属、No.2

5-8：アブラナ科、No.4. 9・10：イネ科、No.1 (スケールは10 μ m)

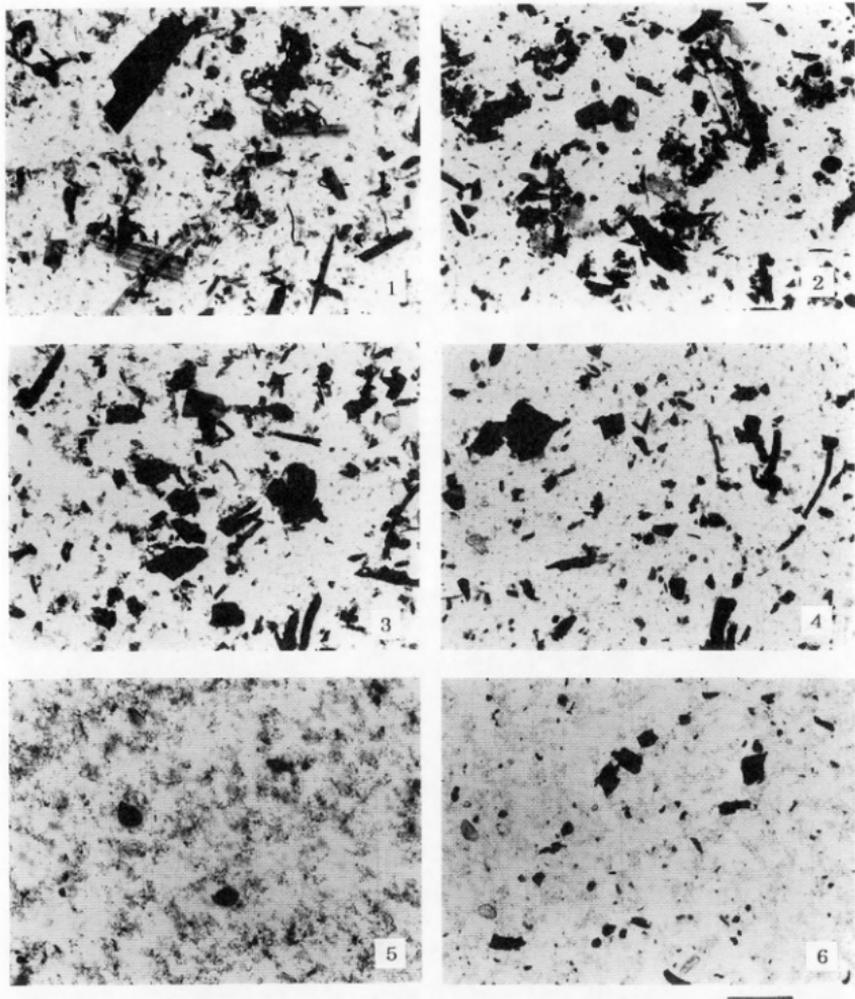
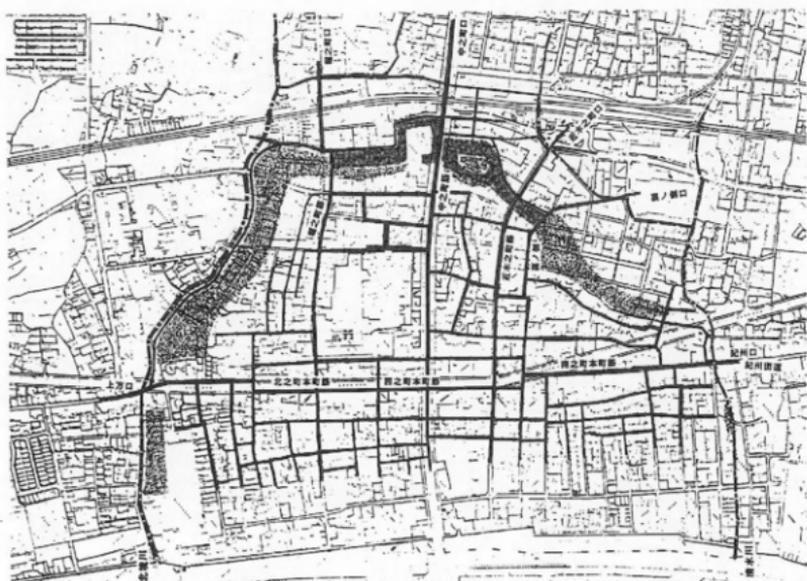


図57 貝塚寺内町遺跡の花粉プレパラートの状況

1 : No 1. 2 : No 2. 3 : No 3. 4 : No 4. 5 : No 5. 6 : No 6.

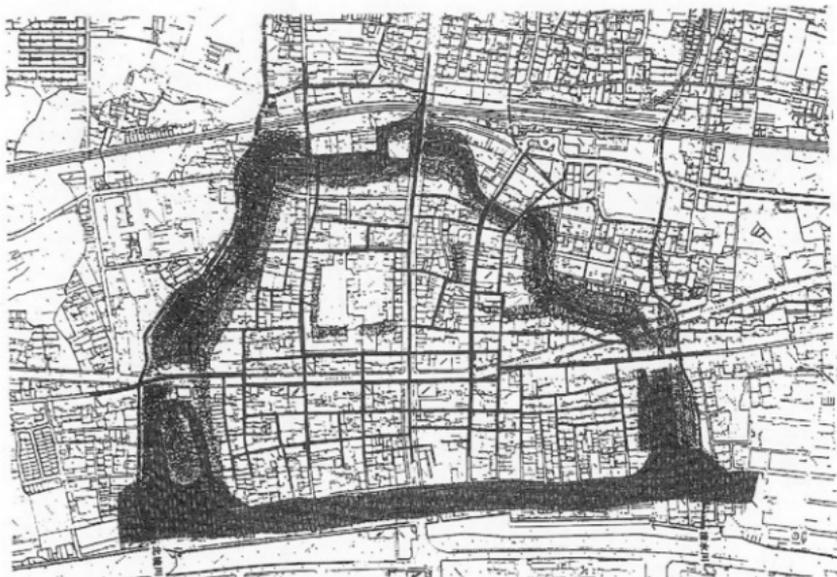
(スケールは10 μ m)



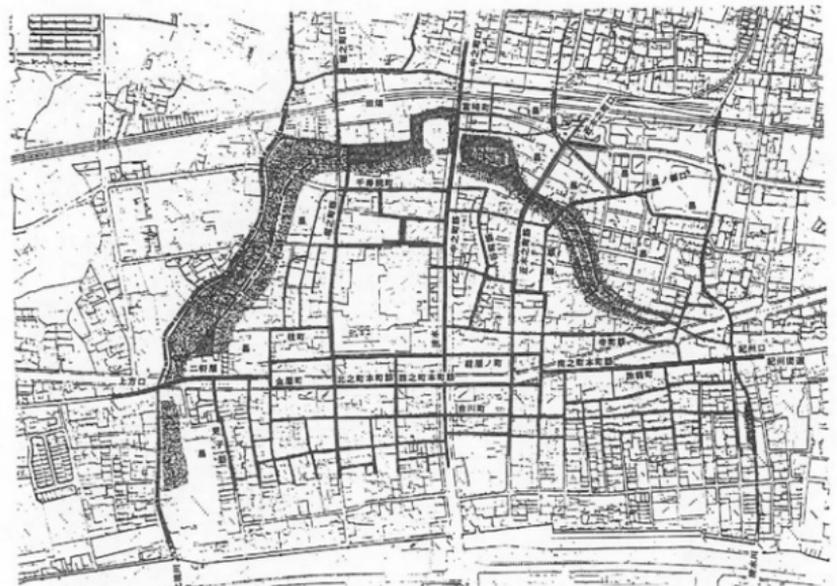
〈参考資料A〉慶安元年（1648）絵図照合図（『貝塚寺内町一町並調査報告書』、貝塚市教育委員会、1987年）



〈参考資料B〉享保17年（1732）絵図照合図（同書）



〈参考資料C〉寛政2年(1790) 絵図照合図(同書)



〈参考資料D〉明治4年(1871) 絵図照合図(同書)

